

飯田地区レポート 権兵衛峠エクスカージョン

「中央アルプスを越える伊那谷と木曽谷の交流を学ぶ」

開催日時 平成21年10月31日(土)

参加者 34名

行程 中部建設協会飯田支所 ～ 権兵衛峠(登山:伊那市側から木曽谷へ) ～ 木曽暮らしの工芸館 ～ 権兵衛トンネル(バスにて学習) ～ 解散

中央アルプスの東には、天竜川を中心とする伊那谷が開け、西には木曽川(太平洋に)や奈良井川(日本海へ)を中心とする木曽谷が開けますが、3,000メートル級の山々を有する中央アルプスは、そのはずれまで迂回しなければ両谷間を行き来することを許しません。

木曽檜等木工製品等の伝統技術に優れ、中山道の宿場町として栄えた木曽谷は、地形が急峻で米が不足します。一方の伊那谷は、河岸段丘の地形で米作が盛ん。不足する米を効率よく輸送することが望まれました。

標高1,522メートルの峠を牛馬が通れるように開拓したのは、木曽谷の古畑権兵衛の強い実行力によるものです。1696年(元禄9年)に完成し、物資に加え人々の往来が盛んになり権兵衛街道とよばれるようになります。

しかし、中央線や飯田線の発達により、人々は電車を利用し、この街道は寂れます。

やがて、車社会になって伊那谷には中央高速道路が走ります。中央アルプスの南の恵那山にトンネルが開けられます。それから約30年後の平成18年、この権兵衛峠の下に権兵衛トンネルが開通しました。

飯田地区のエクスカージョンでは、徒歩で権兵衛峠を越え、木曽漆器の文化を知り、トンネルを引き返すことで、歴史ある街道と土木技術の先端を学び、また、この峠(分水嶺でもあります)の向こうの木曽谷の水が、厳しい管理のもと分水が許され、伊那谷の標高の高い田畑の水源となっていること(「木曽山用水」)も知りました。

(当日の紅葉です)



エクスカージョンとは、その地域にある社会施設などにふれ、ガイドを受けることで、歴史や社会的なつながりを体験学習するものです。

エクスカージョンについては (社)中部建設協会 エクスカージョン係へ